

第 62 回日本卵子学会学術集会

O-14

オンデマンド 2021.06.23-07.12

女性患者の禁煙がもたらす体外受精への影響

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

眞鍋麻衣、佐藤学、中岡義晴、森本義晴

【目的】妊娠前の女性の喫煙は、エストロゲンの産生を抑制し、卵子の老化や染色体異常を増加させると言われている。当院では初診時に問診を行い、喫煙患者には禁煙外来を勧めている。今回は、禁煙したことが体外受精にどう影響するか検討する為、禁煙群と喫煙群に分け、培養成績と移植成績、その予後を比較した。

【方法】2016年1月～2019年1月に体外受精を行った喫煙歴のある患者91人161周期1427個の成熟率、正常受精率、異常受精率、胚利用率、胚盤胞率を比較した。また、314周期の臨床的妊娠率、流産率、出生週数、出生体重、早産率、喫煙が関係すると考えられる合併症発生率についても比較した。

【結果】患者年齢は禁煙群と喫煙群で差がなかった（35.0 vs. 36.3）。成熟率は禁煙群が喫煙群に比べて有意に高かった（89.5 vs. 81.6 : $P < 0.01$ ）。正常受精率（75.2 vs. 79.5）、異常受精率（6.2 vs. 9.1）、胚利用率（47.7 vs. 53.3）、胚盤胞率（55.0 vs. 58.4）では差がなかった。移植成績と予後については、臨床的妊娠率（45.8 vs. 31.2）、流産率（18.2 vs. 36.0）、早産率（0 vs. 14.5）、合併症発生率（11.1 vs. 27.3）については差がでなかったが、禁煙群の方が良好な傾向だった。出生週数（38.4 vs. 38.1）、出生体重（3018.2 vs. 2919.8）では差がなかった。

【考察】喫煙歴のある患者の中でも、現在喫煙しているかどうかで不妊治療の結果が違ってくることが分かった。また、今回の検討では禁煙群の症例数が少なかった為、差はなかったものの、禁煙した方が流産、早産リスクの低下が示唆されたと考えられる。やはり不妊治療を始める前に禁煙を推奨することが望ましい。